

「第 14 回文化庁メディア芸術祭」受賞作品発表！

世界 49 ヶ国・地域、2,645 作品から選ばれた受賞作品が一堂に。

文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会）は、第 14 回文化庁メディア芸術祭の受賞 24 作品と功労賞 1 名を決定しました。

本年度は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの 4 部門に、世界 49 ヶ国・地域から、過去最多となる 2,645 作品の応募がありました。

文化庁メディア芸術祭では、メディアの多様化やテクノロジーの進化、社会環境などを反映したさまざまな作品を顕彰してきましたが、今回も時代性を感じさせる作品が数多く選ばれています。アート部門大賞は、5 メートルの動くアームを持つ巨大な音響彫刻『Cycloid-E』。エンターテインメント部門大賞は、Twitter のフォロワーがキャラクターになってパレードする『IS Parade』。アニメーション部門大賞は、小説の世界観を独特な表現と演出でキャンパスライフを描いた『四畳半神話体系』。マンガ部門大賞は古代オリエントを細かなエピソードで紡ぎあげた壮大な栄枯盛衰の物語『ヒストリエ』です。

また、功労賞には、数多くのマンガ家を育てるとともに、マンガの新しい領域を開拓し、さらにはマンガによる国際交流を推し進めた一人として、栗原良幸（くりはらよしゆき）氏が選ばれました。

贈呈式は 2 月 1 日、受賞作品や審査委員会推薦作品など 171 作品を一堂に集めた受賞作品展、およびシンポジウムなどのイベントは、2 月 2 日から 13 日まで国立新美術館と東京ミッドタウンにて開催する予定です。

平成 22 年度 [第 14 回] 文化庁メディア芸術祭 開催概要

会 期	2011 年 2 月 2 日（水）～2 月 13 日（日） ※ 8 日（火）休館 10:00～18:00 金曜は 20:00（入館は閉館の 30 分前）
会 場	国立新美術館（東京・六本木） ※サテライト会場：東京ミッドタウン
観覧料	無料
URL	http://plaza.bunka.go.jp/
主 催	文化庁メディア芸術祭実行委員会 （文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会）
お問合せ	CG-ARTS 協会内「文化庁メディア芸術祭事務局」 フリーダイヤル 0120-454-536 http://plaza.bunka.go.jp/q/

※大賞作品の画像は CG-ARTS 協会のプレスリリース掲載ページからダウンロードいただけます。
 その他受賞作品の画像をご掲載希望の場合は、ご連絡ください。

<http://www.cgarts.or.jp/outline/press/2010/101208.html>



この件に関する問合せ先

CG-ARTS 協会 広報 篠原・千葉 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 URL <http://plaza.bunka.go.jp/q/>
 広報分室 友野・安藤（ブランデックス・ジャパン） TEL 03-3564-2361 FAX 03-3564-5238

大賞贈賞理由

アート部門 大賞『Cycloid-E』 ミシェル デコステール／アンドレ デコステール（コッドアクト）

『Cycloid-E』は、モーターを内蔵した台座に取り付けられた、各1メートルの5本の金属製可動アームからなる作品である。その可動範囲は、直径10メートルにもおよぶ。台座の回転軸の動きに従い、5本のつながった腕は、予測不可能なダンスのような動きをとり、その動きの速度に対応しながら、機械が発生させる音響も変化し続ける。

この作品のユニークさは、webに象徴される不可視領域の拡大が世界的傾向として見られる中で、その逆像として圧倒的な物質感を出現させたことだ。しかし、ここではその外在性やアンチヒューマンな他者性はテーマではない。重要なのは、その装置が引き起こす空間、時間、そして我々の意識や身体感の変容なのである。この作品との対面は、多くの人にモノを超えた、ある種の精神的畏怖すら与えるだろう。



©Cod.Act

エンターテインメント部門 大賞『IS Parade』 林智彦／千房けん輔／小山智彦

auのISシリーズのプロモーションサイトとしてつくられた『IS Parade』は、twitterの特性をとらえた手法が大きな話題となった。「つぶやき」の連鎖でゆるいコミュニケーション方法確立したtwitterは2006年7月にスタート。ユーザーが爆発的に増え、キャズム越えの声が聞かれ始めたのは09年暮れから2010年にかけてであり、その頃に絶妙なタイミングで発表された作品であった。

ユーザー名やキーワードを入力すると、そのフォロワーやキーワードを発した人々のアイコンがパレードするだけ、という一見バカバカしいサービスだ。しかしこの人間関係を祭りの仮想空間に踊り出させることは、我々がネットワーク越しに体感している「ソーシャル」な現場そのものであった。その後のtwitterなどを利用したプロモーションに決定的な影響を与えたという意味で、歴史的な作品だ。



©KDDI 株式会社

アニメーション部門 大賞『四畳半神話大系』 湯浅政明

テレビ作品初の受賞にふさわしい、実に豊かな表現力に満ちあふれた作品である。京都の景観を入念に取材した上で独特のデフォルメを施した空間とキャラクターの動きがある絵に、饒舌なモノログを重ねて力のある映像を完成させている。

テレビ作品は商業的な制約が課せられることも多く、しばしば既成概念に縛られる傾向にあるが、本作は、週に1話という放映サイクルを逆手にとり、反復描写を導入。さらに独特のシーンレイアウトやアクション、色彩によって物語にマッチした解放感、自由さを獲得し、幅広い観客層を引き込んだ。

よりよい選択を求めて青春の時間をリセットし続ける主人公の姿は現代の若者像に重なるが、最終2話で、主人公が孤独な状況から開かれていく姿を描き、未来を志向する姿勢を示したことは高く評価される。



©四畳半主義者の会

マンガ部門 大賞『ヒストリエ』 岩明均

この作者特有の、いつ誰が死ぬかも分からないドキドキ加減、突き放したような明るさと残酷さとが本作品でも全編を豊かに彩り、面白いの一語に尽きる。

主人公の、書物から得る知識と本能的な賢さのみを武器に、変転し続ける数奇な運命を駆け上がってゆくさまは、読む者を壮大でミステリアスな旅路へと導いて行く。

日本人にはなじみの薄い古代オリエントという時代背景は、作品中の細かなエピソードに絡めてさりげなく説明されており、大変読みやすい。

栄枯盛衰が繰り返される中、生き残る人間があり滅びて行く民族もあり、その果てに書物に記されることで残ったもののみが「歴史」であることを強く感じさせる。物語はまだ序章。作者がこの作品を、文字通りの「ヒストリエ」に完成させてくれるのを楽しみに待ちたい。



©岩明均／講談社

[第 14 回] 文化庁メディア芸術祭 開催内容

「文化庁メディア芸術祭」は、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的として、平成9年度（1997年）より毎年開催。アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において創造性溢れる作品を顕彰するとともに、その創作活動を広く紹介しています。

■ 受賞作品展

アート、アニメ、映像、ゲーム、Web、マンガなど、世界49ヶ国・地域の2,645点の応募作品から選ばれた受賞作品と審査委員会推薦作品を合わせた171作品を紹介。

《アート部門》

58作品（インタラクティブアート、インスタレーション、映像、静止画（デジタルフォトを含む）、Webなど）

《エンターテインメント部門》

48作品（ゲーム、遊具、映像（VFX、CM、MVなど）、キャラクター、Webなど）

《アニメーション部門》

31作品（劇場公開、TV、OVA、短編アニメーションなど）

《マンガ部門》

33作品（ストーリーマンガ、コママンガ、Webマンガ、自主制作マンガなど）

■ シンポジウム

《受賞者シンポジウム》

受賞者と審査委員が受賞作品について語り合います。受賞者からは制作背景や作品のコンセプトなどを、また、審査委員からは評価のポイントなどをお聞きします。

《テーマシンポジウム》

海外フェスティバルのディレクターたちから、それぞれのフェスティバルの特色などをお聞きし、意見交換を行ないます。

※各シンポジウムの開催スケジュールおよび出演者等の詳細情報はWeb「メディア芸術プラザ」で更新していきます。

■ 上映

国立新美術館内だけでなく、ミッドタウンタワー4Fカンファレンスルームのサテライト会場でも上映を実施します。メディア芸術祭の受賞作品だけでなく、海外フェスティバルの受賞作品も上映します。

■ 同時開催イベント

メディア芸術祭は総合的なお祭り。世界のメディア芸術の祭典を紹介する「Media Arts in the World」、学生を対象にしたワークショップのほか、科学と文化の融合を目指す試みを紹介する「先端技術ショーケース」、メディア芸術分野の登龍門として知られる「学生CGコンテスト受賞作品展」などの協賛事業も同時開催しています。